

三好貴士 インタビュー ～ Over The Top / 新たな価値創造を目指して～

Q.今シーズンでアメリカのプロ野球独立リーグにおいてコーチを務めるのは3シーズン目になりますが、なぜ日本人としてアメリカでコーチをやるのでしょうか？

A. 理由は簡単です。日本人で僕のように選手としてたいしたキャリアもない、NPB（日本プロ野球）でもプレーできなかった人間が単独でアメリカのプロ野球リーグでコーチをやるという前例がないので、選択肢の一つという意味でもそういう可能性を今後のために創り出して残していきたいと思っています。人生、野球においての可能性は自分の心的態度で創り出すことができると思うし、チャンスは自分でつかみとっていくものだと思っています。プロ野球＝NPB12球団だけでなく、若い世代にもワールドワイドに目を向けて行けば他にもチャンスがあるかもしれないということを僕という個人媒体を通して感じてもらうことができれば最高ですね。

Q.コーチを始めるチャンスやきっかけのようなものがあったのでしょうか？

A. 2005 年を最後に選手としてプレーするのを一度辞めていたのですが、2009 年に 4 年ぶりに現役復帰をしました。当時ビクトリア・シールズというチームでアシスタントコーチ兼選手として 1 シーズンを過ごすことができました。またその時の僕の監督さんはダレル・エバンスといってメジャーリーグで 21 年間プレーし、414 本塁打を放ち、ワールドシリーズも制覇したことがあるようなすごい経歴の人でした。僕は幸運にもこの監督

さんにとってもかわいがってもらいました。解雇で終わりのはずが、この監督さんのおかげでその後色々な方々とつながり、現在に至ります。

Q.今シーズンは BC リーグで 2009 年に MVP を獲得したことある井野口祐介選手と同じチームであるスーシティ・エクスプロラーズにて 1 塁コーチを務めました。きっかけは？またどんなシーズンでしたか？

A. ダレル・エバンス監督のおかげでカリフォルニア・ウィンターリーグというスカウティングリーグで監督やコーチをするチャンスを頂きました。その中で毎年多くのメジャーリーグ経験者で現在アメリカのプロ野球リーグで監督やコーチをする方々と知り合いになりました。ダレル・エバンス監督が皆さんに僕を紹介してくれるのおかげで他の監督やコーチ陣からこのリーグでいつもとても多くの経験と学びを得ているのですが、この中の一人が今年のスーシティの監督であるスタン・クライバーンでした。それがきっかけで今年は 1 塁コーチの仕事を頂くことができました。また今シーズンは就労ビザ取得におけるトラブルでチームに参加するのがとても遅れてしまいましたが、シーズン終盤のわずかな期間だけでもコーチを務めさせて頂いたことで学んだことははかり知れないですね。今年の監督さんはメジャーリーグを代表するジョー・マウアーやトリイ・ハンターなどをツインズの 3A 監督時代にマネージしていた人なのですが、監督の Baseball に対する世界観やコーチングにおける忍耐や選手を信じる心をすぐ側で感じることができたのは技術的なことを手に入れるよりも大きな価値と意味があったと思います。



Q.シーズン中の1日の流れを教えてくださいか？

A. ナイターの時は大体3時～4時ぐらい球場入りします。その後バッティング練習があるので、僕は試合前に選手達（内野）にノックを打ちます。そして試合前の打撃が終わった後はナイター開始まで時間があるのでコーチの僕はその間にランニングをして体調を整えたり、クラブハウスで晩御飯を食べたりします。その後試合前にシャワーを浴びてユニフォームに着替えます。また試合開始前に相手のラインアップと打者や投手の状態を簡単に頭に入れておきます。そして試合開始後は1塁コーチを務めて試合が終わるのが10時ぐらいなのでクラブハウスでまた軽食をとりシャワーを浴びて家に帰り、その日の試合を振り返りコンピューターなどに必要なことや学んだことを打ちこみます。

Q.1 塁コーチとしてチームのために気をつけていることがあれば教えてください。

A. 基本的なことです。アウトカウントを選手にしっかりと伝えたり、次の塁を走者がねらって行くにあたってしっかりとそのことにおいて必要な情報を選手に与えます。プロのレベルでも選手が気を抜くとライナーで飛び出してアウトになるケースもありますから、基本を忘れないように常に彼らには試合中はケースバイケースで必要な情報を伝えるようにします。当たり前を常に当たり前にできるようにするための手伝いをするということになると思います。



Q.アメリカではコーチングの仕方が日本とは随分と違うと言う話を聞きますが、具体的にどういう部分の違いなのでしょう？

A. 日本のプロ野球リーグのレベルのコーチングを体感したことがないので、はっきりと言いきるのは難しいのですが、アメリカのコーチングというのはとにかく監督・コーチから動いて伝えることはほとんどないですね。とにかく選手から動いて聴いて来るまで待つという感じです。特にうちの今年の監督さんはツインズの3Aレベルの監督をしていた人ですから一層その部分は強かったような気がします。選手を大人として扱うし、プロなのだから必要なこと（選手として足りない部分の穴埋め作業）は自分で気づいて学べという考えを持っている監督さんだったと思います。井野口選手がシーズン後に打撃のレベルを上げるために今後必要なことは何か？と監督室で聴いた時に返ってきた答えは非常に興味深いアプローチの答えでしたね。

Q. 今までプレーヤー時代も含めて5人のメジャーリーグ経験者の下でBasaballをプレーしコーチなどもしていますが、どんなことを学びましたか？また一番印象に残っていることなどがあれば教えて下さい。

A. 当然のことながら技術的な引き出しの部分でメジャーリーグのレベルを体感したからこそ教えてもらうことができたものは大きいです。ここでは言い尽くせないぐらい僕はたくさんの技術論を今まで一緒にいた監督さん

たちから学びました。でも僕が一番面白いなと思ったことは5人の監督さん全てに共通する強烈なメンタリティーでした。

負けを絶対に受け入れないこと、勝利にこだわること、Baseball をリスペクトし、誰よりもこのゲームに謙虚であることです。やはりメジャーリーグでプレーしているからこそこのゲームの面白さも、怖さを理解しているのだと思います。

今でも 09 年の監督さんのダレル・エバンスが監督室で僕につぶやいた言葉が頭からはなれません。“ヨシ、まだ誰もこのゲームを完璧に分かった人間はいない。このゲームは日々進化をし続けるから、必ず学びがある。だから今日もグラウンドに来て何かを学ぶことを忘れてはいけない。” 野球人として一生を通して肝に銘じるべき言葉だと思っています。

Q.今シーズンの監督は誰ですか?またどんな采配をし、そこからどんなことを学びましたか?

A. ツインズの 3A レベルで監督をしていたスタン・クライバーンです。メジャーリーグを代表する外野手であるトリイ・ハンターや天才打者と呼ばれるツインズ至宝のジョー・マウアーなどを指導した経歴がある人です。監督しては非常に辛抱強く、選手を強く信じるタイプの監督さんです。多くを語るタイプではありませんが、しっかりと選手の良い部分とそうでない部分を見ていると思います。チームとして勝利をすることはプロですから当然必要なことなのですが、そんな中でも選手を育てていくために良い意

味での我慢ができる監督さんです。自分も育成という部分では今年学んだ感覚を取り入れて行きたいと思います。



Q.アメリカの Baseball と日本の野球のどういう部分に違いを感じるでしょうか？

A. ゲームそのもの、考え方全てが違います。アメリカの Baseball はやはり選手のパワーがずば抜けています。ただ今回僕がいたレベルで見ると戦術性やゲームを進めて行く上での細かさはさほど感じませんでした。（そういう野球をする必要がないとも表現できます）カウントでの配球ミスや打者でも簡単に打ってでて相手の投手を助けるケースは多々ありました。逆に日本の野球はアメリカに比べるとパワーが劣る感じは否めないですが、1 球 1 球に対しての意識や戦術性があるように自分は感じます。

Q.今シーズン一番嬉しかったことと、一番大変だったことを教えてください。

A. 就労ビザのトラブルもありましたが、シーズン中にチームに帯同し、また新たに経験や知識を手に入れることができたことです。やはりメジャーリーグのレベルを経験したことがある人の感覚というのは独特です。そういった人たちから得た技術論や指導者としての引き出しは間違いなく今後の自分にはプラスになると思います。大変だったことはとくに思いつかないです。自分で選んでスーシティーに行くことを決めたわけですから選択権を持って生きているのは幸せなことだと思っています。

Q.今シーズン一番衝撃的なことは何でしたか？

A. やはりアメリカ野球の選手層のすごさですね。今回のリーグはアメリカンアソシエーションリーグというプロ野球独立リーグの一つですが、僕のみる限りではここから日本のプロ野球で活躍できるレベルの選手はたくさんいると思いますね。現に今年香川オリーブガイナースでプレーしていたアレックス・マエストリ投手も去年はこのリーグで投げていました。投手・打者ともに良い選手がたくさんいました。本当にアメリカ野球は人材の宝庫だと思いますね。

Q.最後になりますが、今シーズン自分が一番成長した点、収穫は何でしたか？ また KOREKARA アメリカプロ野球で監督やコーチをしたいと思っている人たちに一言あればよろしくお願いします。

A. 収穫としてはやはり経験値ですね。今年でアメリカのプロ野球でコーチを務めたのは3年目なのですが、毎年多くの技術論や考え方を学んでいるのが大きいです。またアメリカでコーチをしたい人がもしいるのなら言えることは一つです。行動を起こすことだと思います。僕ができるぐらいなので誰にでも可能性はあると思います。

